



日耳鼻医会 FAXニュース

平成28年9月8日発行 第242号

第41回臨床家フォーラム 「中四国フォーラムin下関2016」へのお誘い

フォーラム会長 鈴木 徹

残暑お見舞申し上げます。第41回臨床家フォーラムが間近に迫りました。参加登録はお済みでしょうか。

今回は本州最西端の下関市で中四国ブロックが中心となり下関市、福岡の先生方のご協力を得て臨床に即役立つ講演を企画しています。海峡の町下関は壇之浦、巖流島、明治維新前後のリーダーたち所縁の地であり、またフグ、ウニに代表される海鮮グルメ、関門海峡を渡ればすぐ門司と観光にも最適です。職員対象の聴力検査実習も開催いたします。

当日も登録も受け付けますので、案内冊子またはホームページ <http://shimonoseki-forum.jimdo.com/> をご覧頂き、ご家族、従業員の皆様をお誘いの上、足をお運び頂きますようお願い申し上げます。

多数のご参加を心よりお待ちしております。

日 時：平成28年9月18日(日)・19日(月・祝)
会 場：海峡メッセ下関 (山口県下関市豊前田町3-3-1)
詳細は案内冊子またはホームページをご覧ください。
運営事務局=(株)メッド E-Mail:jenti2016@med-gakkai.org
TEL086-463-5344 FAX086-463-5345

◎第16回日本臨床分科医会代表者会議 東京都医師会館にて開かれる 9月1日

9月1日(木)午後4時より神田駿河台の東京都医師会館で、第16回日本臨床分科医会代表者会議が開催された。日本放射線科専門医会・医会の担当で、日本眼科医会、日本臨床外科学会、日本産婦人科医会、日本小児科医会、日本臨床整形外科学会、日本精神神経科診療所協会、日本臨床内科医会、日本臨床脳神経外科協会、日本臨床泌尿器科医会、日耳鼻医会の11団体と、日本医師会から羽鳥裕常任理事が出席した。

井田正博日本放射線科専門医会・医会理事長の開会挨拶、羽鳥裕日本医師会常任理事の挨拶の後、議事に入った。第15回の議事録、第15回までの代表者会議についての資料の説明の後、7月に行われた参議院議員選挙の総括があり、自見はなこ議員が比例区で21万票を獲得して上位当選した事は喜ばしく、皆様の協力に感謝したいと羽鳥日本医師会常任理事の話があった。

次に相模原市障害者施設における殺傷事件について、日本精神神経科診療所協会の芝藤昌彦副会長が資料の会長見解を説明、入院医療の受け皿となる地域精神医療の現状を冷静に検証し、これを機会に、精神障害のある方と共に安心して地域で暮らせる社会の実現に向けて踏み出さねばならないと強調した。

次に日本放射線科専門医会・医会より学童運動器健診、総合臨床専門医について議題がだされ、それぞれの問題について活発な意見交換がなされた。

次回は平成29年1月26日、日本医師会館で開催予定。

■新専門医制度 新プログラム使用は 小児科など6学会

—2017年度の実施プログラム、各学会で対応分かれる

日本専門医機構は8月5日に理事会を開き、18基本領域学会の2017年度の実施プログラムについて確認した。既存プログラムが12学会、新プログラムが3学会、併用が3学会だった。新プログラムを用いる6学会の地域医療への配慮について、機構は問題ないと判断した。

日本専門医機構は当初の開始予定は17年度だったが新制度に向けて作成された新プログラムを精査した結果、専攻医の募集定員の合計が約1万9000人で後期研修医の過去採用実績8000人の約2倍となり、大都市への専攻医の集中が懸念される事から1年先送りを決定した。

17年度の対応は各学会に一任されることとなったが、小児科など3学会が新プログラム、救急科など3学会が両プログラムを併用すると回答した

総合診療専門医については、17年度に総合臨床専門研修を希望する医師に対して日本プライマリ・ケア連合学会の「家庭医療専門医」の研修を進めることとなった。

—2017年度の18基本領域学会の対応—

既存プログラム—内科、外科、皮膚科、精神科、産婦人科、眼科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、臨床検査、リハビリ、泌尿器科

新プログラム—小児科、耳鼻咽喉科、病理

既存・新プログラム併用—救急科、整形外科、形成外科

■厚労省、来年度にも保険医療の司令塔 日本版「医務総監」創設へ

厚労省が保健医療政策の司令塔役を担う事務次官級の医系技官ポストの創設を検討している事が8月17日、分かった。医系技官は医師免許を持つ国家公務員で、米国の公衆衛生部門のトップである「医務総監(サージョン・ジェネラル)」がモデル。日本版「医務総監」には専門知識を生かし、保健医療政策の国際展開や危機管理などの幅広い分野で強いリーダーシップを期待する方針。

日本版「医務総監」をめぐるっては、塩崎厚労相直属の有

識者による「保健医療2035策定懇談会」が昨年6月に取りまとめた中長期ビジョンの中で、保健医療政策について総合的なアドバイスを行う任期5年の「保健医療補佐官」の創設を提言。「技術的、公衆衛生的な専門性・中立性を担保しつつ、大臣などの政治家をサポートする」としており、日本版「医務総監」もこうした役割を担うことを想定している。

日本にも戦前の陸海軍に軍医のトップとして「軍医総監」が存在。明治の文豪、森鷗外(本名・森林太郎)は医学者として陸軍の軍医総監も務めた。戦後は医系技官のトップが日本の医療政策を取り仕切ってきたが、「医系技官は現場の実態を知らずに政策立案する」といった批判も少なくなく、舛添厚労相時代に医系技官の固定ポストだった医政局長が事務官に差し替えられたこともあった。

■イヤホンガンガン伝言ゲーム流行 潜む 音響外傷による難聴の危険

Twitterを中心に「イヤホンガンガン伝言ゲーム」という遊びが登場した。このゲームは「イヤホンで大音量の音楽を流しながら伝言ゲームをする」というもので、次々と的是はずれた内容になっていく様子が話題となり、ちょっとしたブームとなっている。このゲームは、その手軽さも相まって女子高校生を中心に広まっていった様子。現在ではユーザーや芸能人なども参戦しており、このゲームを遊ぶ様子をYouTubeやTwitterに投稿されている。しかし、声が聞き取れないほど大音量の音楽を聞いている事もあることを啓発すべきと考えられている。

協和発酵キリン株式会社
<http://www.kyowa-kirin.co.jp>

Commitment to Life

グローバル・スペシャリティファーマ。
抗体医薬をリードする、協和発酵キリンです。

KYOWA KIRIN

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP:<http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp